

(様式 1)

令和2年度

自己評価表

愛媛県立宇和島東高等学校(全日制)

学校番号(40)

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	自らを信じ 自らを鍛え 夢の実現を
------	---	------	-------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現	わかる授業の実践	<p>主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善に努める。また、実施した授業を評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立によって、授業の質的向上を図り、授業アンケートにおいて生徒の授業満足度※90%以上を目指す。さらに、<u>授業でのICTの活用を推進し、新たな学びの研究を進める。</u></p> <p>A : 100~90% B : 89~75% C : 74~50% D : 49~40% E : 40%未満</p> <p>※授業満足度は以下の方法で算出する。 (授業アンケート全体の平均点÷満点4点) × 100 = 満足度%</p>	B	<p>授業アンケート結果について、1学期末と2学期末を比較すると、1項目を除いて数値が上昇している。少しずつではあるが学期の進行により生徒の学習意欲が向上するとともに、教員の授業の工夫・改善等が進んでいるものと評価できる。一方、昨年2学期末との同期比較では、わずかなポイントではあるが2年生で低下した項目がある。全体的にプラスの評価「4 そう思う」「3 どちらかといえばそう思う」とする生徒は90%を超えているが、生徒自身の自己評価項目においては、「3」の割合が高い傾向が見られる。今年度の生徒の授業満足度は84%（前年度は83%）であった。</p> <p>※授業アンケート全体の平均3.354点÷満点4.0</p>	<p>授業者側への生徒評価は「4 そう思う」の割合がいずれも高い。そのことから授業改善への取組が浸透していると受け取れよう。成果を上げていくためには、授業改善の実践を進めながらさらにわかる授業を推進していくことが求められる。来年度から生徒一人1台の端末を使用しながら授業が展開される。ICT環境をどう活用し生徒の学力や満足度を高めていくか、引き続き主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善を図り、生徒が確かな学力を定着できるよう努めたい。</p>
	学習習慣の確立	<p>研修・研究授業に年間5回以上参加することを通して自己研修の充実を図る。校内授業の相互観察等を活用し、「深い学び」の実践に向けた取組を推進する。<u>学校訪問研修実施に向けて、單元ごとの指導案及びルーブリックの作成過程を重視することで、教材研究に努め、授業実践力の向上を図る。</u></p> <p>A : 5回以上 B : 4回 C : 3回 D : 2回 E : 1回以下</p>	A	<p>今年度は本校で学校訪問研修も開催され、指導案作成や教材準備など研究授業の実施に向けて意欲的な取組ができた。「深い学び」の実践に向かう一助となったように思われる。また、コロナ禍により、開催が中止・規模縮小となった県立学校基礎研修や各種研修が多かったにもかかわらず、研修・研究授業への年間参加回数は7.5回確保できた。</p> <p>また、授業力向上推進チームの働きかけもあり、相互に授業参観する機会も増加した。</p>	<p>「新しい生活様式」が提示され、従来の授業形態や授業方法も随時見直していかなければならない状況であり、これまで以上に教職員としての研修や研鑽に努めなければならない。ICT機器を効果的に活用した授業、さらにはオンラインを利用した授業の実践など、デジタル化にむけての課題は山積している。時代の変化に対応しながら、生徒の「深い学び」を支援をしていくために、授業力改善及び指導力や教員としての資質向上に努めていきたい。</p>
		<p>教科間で連携し設定した適量な課題に取り組みさせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。質の高い授業によって学習意欲を喚起することに加え、<u>担任による個別面談を充実させることで進路意識を醸成し、学習時間の増加につなげる。</u></p> <p>A : 3.0時間以上 B : 2.9~2.5時間 C : 2.5~2.0時間 D : 1.5~1.0時間 E : 1.0時間未満</p>	C	<p>担任による個別面談の時間が、物理的に不足している。生徒の心に目を向ける時間の確保が必要である。</p> <p>2学期の学習時間調査で、理・普科は190分と目標を達成したが、商業科は93分と達成できていない。また、3学期の調査で、1・2年理・普科は172分、商業科は105分と目標を達成できていない。</p>	<p>昼休みや放課後の時間が不足しているため、時間的な改善を進めたい。教育内容の精選も課題である。</p> <p>過年度と比較して、学習時間は増加したが、目標達成とならなかった。学力の定着と向上には継続的な学習習慣の確立が不可欠である。質の高い授業によって学習意欲を喚起することに加え、ICTを効果的に活用した学習スタイルを定着させ、学習時間の増加につなげたい。</p>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自己実現	理数教育の充実	科学的探究能力の育成を図るとともに、科学系コンテスト等において課題研究の受賞数20件以上、また、地域貢献の意識高揚を図るために、地域サイエンス事業のイベント等への参加数 500名以上を目指す。ただし、 <u>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応を考慮し、イベント等の実施の可否を検討する。</u> (科学系コンテスト) A : 20件以上 B : 16~19件 C : 12~15件 D : 8~11件 E : 7件以下 (地域イベント参加) A : 500名以上 B : 400~499名 C : 300~399名 D : 200~299名 E : 199名以下	C	科学系コンテストの受賞数は、16件であった。社会共創コンテストグランプリ受賞やスーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表大会ポスター発表賞など大きな賞の受賞が増えつつある。地域イベントについては、コロナ禍の影響で宇和島自然科学教室が今年度は中止となったことや小中学校との交流が厳しく制限されたことにより、ほとんど実施することができなかった。活動は現在も継続中であり年度末までの部活動の中で実験の動画を制作するなど、オンラインでの活動にも取り組みたいと考えている。	引き続き、科学系コンテストでの受賞を増やしていきたいようよう、より質の高い課題研究に取り組んでいきたい。オンラインでの発表会も増えているので、意欲的な参加を促したい。 地域サイエンス事業については、次年度の9月以降に宇和島自然科学教室の開催を決定している。また、今年度は中止となった「宇東SSH科学の祭典」を実施できるよう計画的に活動を進めていきたい。さらに、オンラインでの活動にも注力し、しっかりと情報発信していくための思考力や表現力、技術なども身に付けさせていきたい。
	産業教育の充実	キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。 A : 70%以上 B : 69~60% C : 59~50% D : 49~40% E : 40%未満	E	本年度は新型コロナウイルスの影響により、授業時数の減少や検定試験対策の時間も不足し、全商検定1級3種目の合格者数も40%未満となった。例年1年生で実施しているインターンシップも新型コロナウイルスの影響で中止したが、代替として外部講師による講演会を実施してキャリア教育の充実に役立てた。	来年度は、放課後等の時間やICT機器を活用を通して検定対策の指導を充実させ、より多くの生徒が全商検定主催検定の1級を取得できるようにしたい。また、新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、インターンシップや外部講師によるキャリア教育講演会などを計画的に実施したい。
	希望進路実現	望ましい職業観や勤労観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を十分に把握した上での就職指導を実践し、早期に採用内定率100%(一次試験の合格率90%以上)を達成する。 A : 90%以上 B : 89~80% C : 79~70% D : 69~60% E : 60%未満	A	新型コロナウイルスの影響により、従来の就職選考日程が1か月後ろ倒しになったが、大きな影響もなく、早期に就職内定率100%を達成することができた。また、公務員希望者においても、5名が合格することができた。	進路に関する講演会やインターンシップなどの体験的な学習を通して、早期から進路に対する目標を持たせることで就職に対する進路意識の向上に努めたい。引き続き、担任や教科と連携した進路指導に努めるとともに迅速かつ適切な進路情報を提供していきたい。
	希望進路実現	「思考力・判断力・表現力」を問う入試問題の研究に努めるとともに、教員の進路指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数 110名以上を達成する。 A : 110名以上 B : 100~109名 C : 90~99名 D : 80~89名 E : 79名以下	D	思考力を問う問題については、研究を進めることができたが、一方で基礎力を充実させるための視点も更に研究が必要である。定期考査については、全教科で原則60分の考査時間が適切か検証が必要である。今年度から実施された大学入学共通テストに対応するため、模試の回数を増やしたり各教科で補習や個別指導を行ったりするなどの対策を行った。3月10日時点では、国公立大学及び難関私立大学合格者は85名であり、あとは中期・後期試験の結果待ちである。	業務のスリム化を実施するとともに、教員研修を充実させるための時間を確保したい。例えば進学委員会が授業と並行して実施されていることなどは改善していきたい。また、生徒の進路希望を尊重しながら最適な受験先を提示できるよう、各学校の特徴や新しい入試傾向の「思考力・判断力・表現力」を問う問題の研究を更に進めていきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
心身健康で豊かな心	基本的な生活習慣の定着	<p>新型コロナウイルス感染症の予防対策を踏まえた上で、気持ちの良い挨拶や衛生面でのエチケット、清潔感のある身だしなみの実践 100%を達成する。また、交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故0を達成する。</p> <p>A : 100~90% B : 89~75% C : 74~60% D : 59~50% E : 50%未満</p>	B	<p>「気持ちの良い挨拶ができています」と「ほぼできている」という生徒が73%を超えている。また、端正な身だしなみについても「できている」と「ほぼできている」を合わせ84%に達しており、全体的に基本的な生活習慣を身に付けようとする意識が向上している。交通事故は自転車運転中の自損事故が2件登校中に自転車と接触した事故が1件で計3件であり、昨年に比べると減少した。(昨年は4件)</p>	<p>気持ちの良い挨拶や端正な身だしなみの取組は、全体的に成果が上がっていると思われるので、この良好な雰囲気が校内に定着していくよう指導を継続をしていきたい。コロナ禍で、高校生の交通マナーや衛生面でのエチケットなどについても厳しい目が向けられている。マスク着用の徹底を含め、さらに公共の場での生活指導を徹底していきたい。</p>
		<p>生徒の健康と安全に留意し、学校全体で長期欠席や不登校への早期対応に取り組み、一か年の皆勤率60%以上を達成する。防災教育を通して、防災意識の高揚を図る。</p> <p>A : 60%以上 B : 59~50% C : 49%~40% D : 39%~30% E : 30%未満</p>	D	<p>生徒の健康と安全に留意しているが、1年生の皆勤率が77.1%に対し2年生は57.7%、3年生61.5%であった。皆勤率はクラスによってばらつきがみられ、長期欠席者も増えてきている。 コロナ禍により防災避難訓練は実施できなかったが、代替として防災委員が避難場所やルートを調査し、全校生徒に結果発表するなど、防災意識の向上に取り組むことができた。</p>	<p>健康観察の記録表を活用するとともに手洗いやマスク着用の徹底を促し、生徒の体調管理に努めたい。また、長期の欠席を減らすためにも担任や教科担任、保護者と連携を更に深め、改善を図っていきたい。防災意識は少しずつ高くなってきており、引き続き防災教育を充実させ生徒の防災意識を醸成していきたい。</p>
	人権意識の高揚	<p>差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させ、保護者・地域との連携を強化する。 人権・同和教育研修会を充実させ、全教職員が共通の意識をもって取り組む。また、校内・校外の人権委員会活動の活性化を図る。 人権侵害をなくす取組を10回以上実践する。</p> <p>A : 10回以上 B : 9~8回 C : 7~6回 D : 5~4回 E : 3回以下</p>	A	<p>人権・同和教育ホームルーム活動は年間4回実施できた。コロナ禍のため、公開授業としたのはその内2回であった。人権だより『ひだまり』の発行(11回)、『ひだまり』を活用したショートホームルーム時の全校放送による啓発活動(10回)、『宇東人権メッセージ』の発行等により生徒、教職員の人権意識高揚に努めた。校内外の研修に参加した際は職員朝礼で出張報告会を実施し研修内容を共有した。コロナ禍により識字学級の交流会は実施できなかったが、校内での研修や「たんぽぽ読書会」との交流会を実施することができた。</p>	<p>人権だより『ひだまり』の発行回数を増やすとともに、校内放送を活用して啓発活動を実施したことにより、生徒や教職員の感想から人権意識が高まりがも感じられる。校内での様々な人権・同和教育研修会を実施することで、教職員の人権意識や同和問題に取り組む姿勢にも変化が現れてきたように思われる。次年度もこの取組を継続し、生徒にとって居心地の良い学校の雰囲気作りを努めたい。</p>
	読書の勧め	<p>学年団の協力のもと、「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。「宇中文庫」(集団読書用の新書)の貸出を各クラス年間2回以上とする、教科学習における図書館の利用を促すなど、「深い学び」の実践の一環としての図書館教育を目指す。冊数一人10冊以上を達成する。</p> <p>A : 10冊以上 B : 9.9~8.0冊 C : 7.9~6.0冊 D : 5.9~3.0冊 E : 2.9冊以下</p>	C	<p>、年度当初の臨時休業や一学期の行事予定の大幅の変更等により、「宇中文庫」の貸出は全クラス1回となった。また、今年度は年間を通して、別室登校の生徒の使用場所となり、通常の開館状況とはならなかった。支援員の先生方の控室でもあったため、授業やホームルーム活動での利用を促すことが難しかった。ただ、今年度は図書館にほぼ常駐の司書担当者が配置され、放課後の利用時間も延長していただいた。生徒の年間読書冊数は、6.6冊となっている。(12/20現在)</p>	<p>図書に関するアンケートでは、「朝の読書」の時間は充実しているかの問いに96%の生徒が充実していると回答している。職員朝会の効率化により、担任や副担任の先生方が生徒と一緒に「朝の読書」に参加できる機会が増えたことも成果の一つとして挙げられる。次年度も引き続き、読書指導の充実や図書館利用の促進に努めていきたい。</p>
ボランティア活動や地域イベントへの参加	<p>一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通じて、広く社会に貢献し、地域を愛する人材を育成する。</p>	C	<p>コロナ禍の影響により例年行っていた活動の多くが実施できなかった。しかし、小集団(生徒会)による校内活動やボランティア部による対外活動など回数は減少したが実施できた。</p>	<p>校内外のボランティア活動の参加案内など、可能な範囲で啓発していきたい。また、個人での活動への参加を学校としてサポートできる体制も整えていきたい。</p>	

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	生徒の主体性を軸に、学校行事における協働的な取組を通してコミュニケーション力を高め、愛校心や豊かな心を育成するとともに生徒の学校行事満足度100%を達成する。 A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~60% E : 60%未満	B	新型コロナウイルスの感染拡大によりポートルース大会は中止した。文化祭や体育祭は規模を縮小したり、様々な感染症対策を行うことで実施することができた。なかでも体育祭は生徒会が主体となり、計画的に運営することができた。生徒一人ひとりにとって、様々な制約の中での行事となり、不足を感じる生徒もいたと思うが、今回の経験は来年度に生きてくると考える。	次年度も行事の実施にあっては様々な制約があると思われるが、社会状況を考慮しながら本校の特色ある行事の一つであるポートルース大会が実施できればと考えている。ポートルース大会は、生徒の安全確保を最優先する観点から会場の変更も検討している。文化祭は、今年度同様に2学期に実施したい。また、学校行事全般について来年度から津島分校との交流も検討していきたい。
	部活動の活性化	「質の高い文武両道」を目指すなかで、生徒、教職員、保護者が連携を深め、より良い部活動運営を行い心・技・体の調和が取れた生徒を育成する。 <u>四国大会に15部以上、全国大会には12部以上の出場を目指す。</u> (四国大会) A : 15部以上 B : 14~11部 C : 10~5部 D : 4~1部 E : 出場なし (全国大会) A : 12部以上 B : 11~10部 C : 9~5部 D : 4~1部 E : 出場なし	B	新型コロナウイルスの感染拡大により様々な大会が中止になったため数値的な目標は達成されなかったが、陸上競技部の全国大会出場をはじめ県大会の代替試合における卓球部男子の優勝、野球部の準優勝など結果を残す運動部が多かった。毎年のことながら少林寺拳法部、柔道部、ボート部の全国選拔出場権獲得、卓球部女子、テニス部女子の四国大会出場なども立派な成果である。結果も大切ではあるが部内の良好な人間関係の構築や各部が活動方針に則り計画的に部活動運営がなされていることも評価に値すると考える。	結果を残すことを目指しつつも部員生徒や顧問教員の負担軽減が図れるような部活動の取組を考えなければならぬ時期がきていると考える。教員の働き方改革、生徒の文武両道の実現、保護者や地域との連携の3本柱をしっかりと見据えて改善すべき点は改善していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	校務支援システムの活用を推進し、教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を推進し、時間の有効活用を努める。月に1回の「リフレッシュデー」を設定し、定時退勤のための意識高揚を図る。	C	勤務時間を確認する勤務状況一覧表への入力が進められ、業務の効率化に向けた意識が向上したと思われる。ただ、コロナ禍による、前例のない業務が増加したことにより、勤務時間外の労働時間には、大きな変化はなかった。	次年度も校務支援システムの効果的な活用を推進するとともに個人の出勤時間管理に努めることにより業務の効率化を図りたい。教職員の業務負担を軽減して勤務時間が適切となるようより一層啓発に努め改善につなげたい。
	職場環境の整備	健康管理医による健康相談や健康講座を定期的実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図り、メンタルヘルスケアの向上に努める。	C	教職員厚生室発行の「健康相談室だより」の配布するなど、メンタルヘルス関係事業・福利厚生制度を積極的に活用できるよう情報提供を積極的に行った。	教職員に対し健康管理医による定期的な健康相談などを実施し、教職員のメンタルヘルスケアの向上に役立てたい。また、良好な職員相互関係を構築し、負担感の軽減を図る。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。